

おーぷん

社会福祉法人さざんか会法人広報誌「おーぷん」第 104 号 2025 年度末

発行:さざんか会法人本部/船橋市行田 2-8-1/☎047-404-1135

編集:おーぷん編集委員会/けいよう/船橋市二和西 5-10-1/☎047-411-8177

冒頭から、臆面もなく似非知識を披露の次第で恐縮です。掲げました今回のテーマとは逆に「悪貨は良貨を駆逐する」もあり、この方がより知られていまいしょうか。無知な私はこれが経済の法則で「金の含有量の多い金貨(良貨)と少ない金貨(悪貨)が同じ額面で流通した場合、人々は良貨を手元に置き貯蓄、悪貨を使用流通させること、とは知りませんでした。

悪貨が市中に出回るとき、様々な弊害が起きました。物の値上がりが生じインフレ状態となり、庶民の暮らしは困窮します。江戸時代、幕府の財政危機に際し、度々金の含有量を減らす改鑄が行われたそうです。都度、それなりの効果はあったようですが、貨幣に対する人々の不信感が増したようです。

今回のテーマはこれとは正反對に、良いものが悪いものを排除し、より良い状態がたもたれるべき、という考えの例えです。今から四半世紀ほど前に、「社会福祉基礎構造改革」という抜本的な制度改革がありました。戦後続いた社会福祉という概念

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

「良貨は悪貨を駆逐する」か？

おーぷん 104 号目次

P1 「良貨は悪貨を
駆逐する」か？
理事長 宮代隆治

P3 寄稿
『卒園にあたって』
・とらのこキッズ保護者
渡部 佑華 様

・さざんかキッズ保護者
山田 まゆ子 様

P5 北総だより
・北総育成園
・笹川なずな工房

P8 各事業所冬だより
・ゆたか福祉苑
・けいよう
・のまる
・カメラアハウス
・グループホーム
・とらのこキッズ
・さざんかキッズ

が、この新たな制度について、当時の厚労省の高官の講演を拝聴の機会がありました。

「これから、障害福祉事業も選ばれる時代を迎えるのです。病院を見れば分かるでしょう。やたら薬ばかり出して、インフォームドコンセントも疎かに、そんな病院には誰も行きません。潰れるでしょう、障害福祉もそうなるのです」と。

契約によって利用が決まるのだから、質の高いサービスを提供する事業所を探し、納得して利用は始まる。不親切だったり、いい加減であったり、言っていることとやっていることが違う、そんな施設は忌避される、淘汰される。市場原理、そういうことかと思いました。それから四半世紀を経ましたが、さてどうなっているでしょうか。

障害福祉サービスに係る報酬について、3年毎の見直しは原則であり、今度は令和9年の春がそのときかと思っていました。が、国は今年度臨時応急的な見直しを実施するようです。背景に、障害福祉サービスに係る予算は自立支援法施行時から4倍以上に増加しており、制度持続の可能性が問題となる。また、事

業に乗り出すとき地域のニーズを把握しないまま事業展開を図り、開設後に利用者を募集するという状況がみられる。事業所がどんどん増えて掛かる予算も膨らみ続けこのままでは制度の維持に赤信号、との判断があるようです。中でも、「グループホーム」や「放課後等デイサービス」、「児童発達支援」に「就労継続支援B型」については事業所が急増していると同時に、儲かっているよう、と判断されました。どうも、これらの事業について、新規参入事業者の報酬を下げる気配が窺えます。これらの記述に加えて、「サービスの質の低下が懸念される」とか「障害福祉サービス事業者における不適切な事業の報道もあり」とし、「就労移行支援体制加算について、本来の趣旨と異なる形で過大に受給されている」と紹介されました。「良貨」に該当する適切な、合格点の貰えるような事業所ばかりではなく、中に胡散臭い不適切な事業所もあるようで、これは「悪貨」か。

グループホームの利用について見ますと、平成28年3月の入居者数は全国で一〇二、二八八人で、令和7年9月では二二、

二六人とこの10年弱で倍増しています。これだけ利用者数が増え、全国にあまた事業所が増えています。自分で選ぶ、今は相談支援専門員のお手伝いもルール化されたのであり、当然良質のグループホームを利用することが容易になった、でしょうか。どうも、そうとばかりは言えないようです。近年、「恵」グループによる食時代の不正請求等は記憶に新しいところです。

昨年、県育成会から依頼を受けてグループホームのお話をする機会がありました。そのときのテーマは「良いグループホームの見分け方」でした。会場からは、利用してみてもこんな筈では、「の」声がいくつも聞かれました。皆さん、グループホームの良し悪しを見分けるのに、汲々としていらつしやるようです。

市場原理、優良は評価され劣悪は排除される、結果として優良なものが残り栄えて、劣悪なものは退場となる。どうも、そんな単純なものではないようです。高齢者介護や障害福祉サービスに、物の売買ではないのですから、もっとデリケートに心のこもった営みが為されなければなら

りません。そこで「良貨」が作られ、市中に流通させることになりましょう。より多くの「良貨」が作られないと、「悪貨」は中々駆逐できないようです。



(追記)この原稿を書き上げた数日後、とんでもないニュースが飛び込みました。柏にあるグループホームで殺人事件が起きたというのです。昨年3月、19歳の知的障がいのある男子入居者の方が、そのホームの管理者の男性の暴行により死亡したとのこと。そのことを隠し、証拠隠滅等で関係する2名も逮捕とあります。いまこのレベルにまで、障害福祉の現場は堕ちてしまっている…。これでは、ご本人やご家族も、選ぶようがありません。グループホームという障がいのある人の生活の場、その信用が失われてしまっています。

【寄稿】 この春、さざんかキッズおよびとらのこキッズの卒園を迎えられた保護者様にご寄稿いただきました。

卒園までを振り返って

娘の志優（しゅう）は、2歳上に姉がいて次女として誕生しました。0歳の頃は、よく飲み、よく寝て、手のかからないとても育てやすい子でした。運動面も順調で、1歳の時には歩き出していました。言葉は出ていなかったものの、あやすと笑い、とても穏やかな子だったので、そのうち喋るだろう、と。発達についてたまに検索をすることはありましたが、この頃は、そこまで深く考えていませんでした。私が本格的に心配になり始めたのは、市の1歳半健診の案内が届いた頃からでした。できることのチェック項目が少なかったのです。私は一気に不安になり、健診を待たずして、こども発達支援センターに電話をしました。最初の相談は、いったん様子見て、こどもとの関わり方のアドバイスをいただき終わりました。コロ

ナ渦で人とかかわりも少なかったし、もう少ししたら保育園にも通うし…と、心配しつつも少し楽観的な部分もありました。



しかし、保育園に通い始めると、現実が突き付けられます。友達に興味がない、手を繋いでお散歩ができない、急に泣き出して癇癪を起こしたり…様々なことが娘には難しいことがわかりました。少しして週2で療育もスタートしましたが、1番辛かった行き渋りは変わりませんでした。今日は少しでもご機嫌で行けるかな、迷惑かけないかな、など。娘は何一つ悪いことをしていないのに、私は勝手に申し訳なさに苛まれていました。園の先生は、志優の園生活に對

して、できる限りのことをしてくださり、私にもとても寄り添ってくれましたが、私は自分を責めるばかりで、育児も全く楽しめておらず、自己肯定感とは下がっていく一方でした。年少になってからも状況は変わらず、相談支援専門員さんに相談をし、年中からとらのこキッズへの入園を決めました。

とらのこキッズに入園すると、様々な変化がありました。何より嬉しかったのが、行き渋りがほぼなくなったことです。日に日にとらのこキッズに慣れてくると、ノリノリでバスに乗っていく娘の姿がどんどん増えていくのです。娘から言葉で聞くことは出来ませんが、娘のその姿が、とらのこキッズでの生活の楽しさのあらわれでした。また、今までは申し訳なさでいっぱいな気持ちで通わせていた園でしたが、「今日は家でこんなことができました！」「あんなことをしていい、とってもかわいかったです！」など、嬉しかった出来事を伝えられるようになったことも、本当に嬉しかったです。先生方は志優の成長をいつも一緒に喜んでくれました。特に覚えてい

るのは、初めて園でトイレが成功した時です。トイレが成功した次の日、園に私が送迎する日だったので、登園するやいなや、他のクラスの先生たちからも「志優ちゃん、トイレ成功、おめでとう！すごいね！」と声を掛けられ、たくさんの拍手で迎えられました。暖かい先生たちに、涙が出そうになりました。



どんな時でも、一緒に考え、一緒に喜び、支えてくださった先生方をはじめ、とらのこキッズでかわってくれた皆様に、感謝しても感謝しきれません。卒園したくない、というのが私の本音です。しかし、娘の志優の新しいステージに向けて、家族三人三脚で、一步一步進んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。

とらのこキッズ 保護者

渡部 佑華

【この場所から、また一歩】

我が家の次女、瑚羽（こはね）は、甘え上手なダウンちゃんです。



娘がダウン症だと分かったのは、まだお腹の中にいる時で、15週の健診で医師から「首にむくみがあるように見える。ダウン症の可能性がある。出生前診断するかしないか一晩よく考えて」と言われ、夜中まで夫と話し合いました。しかし、ダウン症だと分かったところで、私にはいくら考えても、我が子の命を終わらせる選択は出来ないと思い、検査に意味を見出せなかったの、病院には「検査はしませんが、どんな子でも受け止めます」と伝えました。しかしその後、26週の健診で医師の表情が険しくなり、すぐに大学病

院に転院するように言われました。赤ちゃんの胸に水が溜まり、肺を圧迫していたのです。その後、大学病院から更に国立の病院に一時的に入院をし、胎児の胸にチューブを留置する難しい手術をしていたことができました。その際に、胸水の原因を調べる為に検査をした結果、やはりダウン症で、それが原因でもありました。ある程度は覚悟していたので、健康な体に産んであげられない申し訳なさがありました。ダウン症でショックという事はあまりありませんでした。それよりも「助からないと思います」と医師から告げられ、そのことがショックで大部屋の病室で声を殺して泣きました。

それでも我が子の力強い心拍の音を聞く度に希望が湧いてきて、前向きに考えられるようになっていきました。その後大学病院に戻り、33週の夜中に緊急帝王切開となり、ふと頭に「助からないか」と思います。しかし安堵したのも束の間、そこからが大変でした。出生後すぐに心臓の手術、そして気管切開の手術を受け、小さな体でいくつもの困難を乗り越えてきました。コロナ禍に突入し思うように会えない中、退院までに10ヶ月もの時間がかかりました。



最初は集団生活で体調を崩さないだろうか、迷惑をかけてしまわないだろうか、と不安を抱えておりましたが、先生方やお友達のおかげで、体調を崩す事もなく楽しく通う事ができ、どんどんできる事も増え、家庭だけでは得られなかった経験をたくさんさせていただきました。いつも娘の体調や小さな変化に目を配り、安心して過ごせる環境を整えてくださった看護師さん、先生方には、感謝の言葉しかありません。年長のこの一年は娘にとっても私たち家族にとってもかけがえない宝物です。親子共々支えて頂き、本当にありがとうございました。



さざんかキッズ保護者

山田 まゆ子

北総の里だより

北総育成園

入所施設における看護業務について

看護師 師岡 小百合

北総育成園に入職して18年が経ちました。私の専門は看護師業務です。出勤して最初にすることは、情報収集です。ほぼ毎日定期通院が予定されていますが、利用者さんの急な体調不良があれば、その調整が必要です。「おはようございます。」朝は元気な挨拶を心掛けます。利用者さんからも元気な挨拶が返ってきます。各寮の体調管理表を確認し夜勤者からの報告を受け

て、私が利用者さんに会って状態を確認し、主任と情報共有しながら通院の検討をします。どの病院がよいか？同行職員はどうするか？病院との交渉は通常私が行ないますが、土日祝日や夜間では、電話で相談しながら主任が行ってくれます。昨年8月、60代男性Aさんの目が充血していると報告がありました。急いでAさんの所へ向かうと、左眼が明らかに充血し

黒目が大きくなり白く光っていました。緊急性があると判断し、Aさんの通院を最優先に考えました。この日に予定されていた内科の定期通院者の薬の残量を確認。予備薬があったので後日の通院に変更しました。

近隣の眼科クリニックに相談しましたが午前休診午後診療でした。Aさんの眼の状況を考えるとすぐにでも診察を受けさせたい。成田の大学病院への問い合わせをすめられ、すぐに診療を受けられる事になりました。約1時間で到着すると、医師が準備して待っていてくれました。「左眼緑内障・両眼白内障」と診断。左眼は緑内障の為に眼圧が非常に高い数値でした。緑内障によって急激に白内障の進行も見られ緊急手術が必要でした。ご本人は、頭痛があり急激に目が見えない状態になっていると予想されました。前日に職員からAさんがおでこに手を当て

ていたという報告が入っており、それはAさんからの体調不良の訴えでした。利用者さんの体調不良のサインをキャッチする事の大切さを学びました。



大学病院への通院時の様子

緊急手術については、ご家族の手術時の立会いと入院中の付き添いが必要でした。施設長がご家族である従弟さんと連絡をとって下さり、医師が従弟さんへ電話で説明してくれました。手術は翌日に決まり、従弟さんが一晩入院付き添いをして下さることになりました。手術は成功し翌日病院へ迎えに行くと左眼の充血はあるものの、Aさんは元気な様子で無事退院できました。従弟さんは、病室でAさんを気遣って一晩中眠れなかったそうです。

帰園後、一日4回の点眼・目を擦らないように気を付けての生活となりましたが、経過良好で無事5カ月が経ちました。緊急に付き添いをして下さった従弟さんに感謝申し上げます。おかげ様でAさんは、回復したその両眼で、今色々な物を見て楽しんでいきます。その笑顔をととても嬉しく思います。

現在北総では、高齢化が進み、救急通院が増加しています。先日の研修で、入所施設で訪問医療や看護が受けられるのは現在末期がん患者のみと聞きました。

利用者さんは、実年齢よりも老化が早い方が多いので、もっと多くのケースが訪問医療を受けられればと思います。

北総の嘱託医は、通院中心での診療です。休日や夜間は検査が難しく正確な診断が出来ない為に、大きな総合病院への救急通院が増えています。今後、救急も含めて医療対応は喫緊の課題です。利用者さんは、私にとって共に生きる大切な仲間です。朝挨拶をして、お互いの体調を心配し合います。私が日々出来ることは、利用者さんの体調不良を早期に見つけ、安心な生活を整える事です。今後も施設と病院との連携を中心に頑張っていきたいと思っています。



2/9（月）北総育成園周辺はあたり一面雪景色でした

2月4日（水） 職員研修『身体拘束適正化研修・介護される側の負担を考える』



笹川なずな工房

『今が旬

夏みかんピールと

いちご製品たち』

支援員 佐々木 貴子

立春が過ぎ、暦の上では春というのに、ここ東庄町では珍しく大雪になりました。



今、笹川なずな工房ではこの時期ならではの、夏みかんピールの最盛期を迎えています。ピールの材料となる夏みかんの調達は地域の方々や保護者、職員等のご厚意により、集められています。なずな工房設立当初より継続してご協力いただいております。現在は例

年にならない程の夏みかんの提供があり、加工班だけでなく、他班からの協力体制を組みながら夏みかんピール作業に励む毎日です。利用者のTさんは、「今年の夏みかん、半端なくいっぱい集まっている!」「夢にまで出てきた!」と笑って話してくれました。

夏みかんピール製造工程紹介

①【夏みかんの選別】一つ一つ丁寧に洗い、皮の厚さを見ながらピール用とジャム用に分けていきます。皮の厚いものがピール用になります。

②【皮切り】4分割に切り皮を剥いていきます。作業室(心田)では夏みかんの香りに包まれ、指

先も黄色に染まりながら、取り出した実と薄皮は夏みかんジャムの原料として使われます。皮はピール用に均等に包丁で切り分けます。

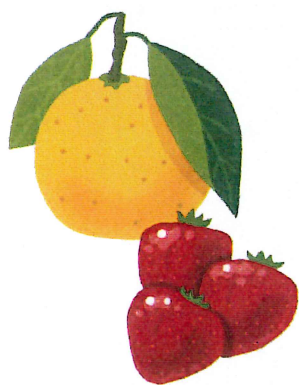
③【煮こぼし】3時間程煮こぼし、苦みとアクを取り除いていきます。その後、砂糖煮という工程へ移ります。

④【砂糖まぶし】皮にグラニュー糖が絡むように砂糖でまぶしていきます。箸で一本ずつ判重に並べ乾燥させ、グラニュー糖をまぶすを3日間繰り返し、4日目によろしく完成します。

大変根気のいる作業で利用者さんが一つ一つこの工程に入り繰り返して行きます。その中で利用者さんの特性に合わせ強みを発揮出来るよう、それぞれが持つ力を引き出せることで自信となります。黙々と集中して行う利用者さんの姿は自信を持った良い表情です。出来上がった夏みかんピールは道の駅や常設店へ納品し、中には10個、20個とまとめ買いをしてくださる方もおられ、大変ご好評いただいております。また、時期になると地元の方からもピールを待ち望んでいる要望の声が聞かれます。

お土産にも重宝され、イチ押しの人気商品です。暖かくなると砂糖が溶けてしまい、製造が出来なくなる期間限定の季節商品となります。この機会に是非、お買い求め頂けると嬉しいです。

そして、いちご狩りシーズンの今、地元の観光農園さんとの提携でイチゴジャムはもちろん、製パン班ではイチゴを使ったマフィンやクッキー、ラングドシヤ、シフォンケーキなどの焼菓子も注文をいただき製造しています。5月初めまでの期間限定で製造に励んでいます。今後はイチゴ収穫も始まります。利用者さん、職員、力を合わせて日々の作業を自分の役割として、進んでいきたいと思っています。これからも皆様に支えて頂きながら、地域に根ざした笹川なずな工房をどうぞよろしくお願い致します。





【皮切り】の工程



たくさんの夏みかん



笹川なすな工房の製品



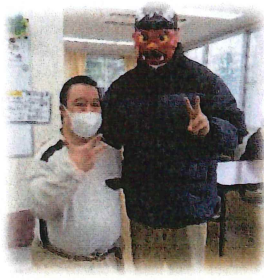
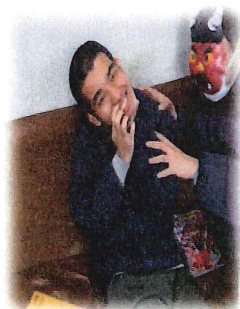
出荷に向けたパック詰め

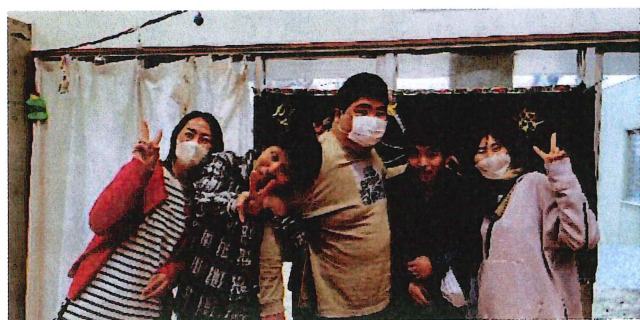
各事業所冬だより

ゆたか福祉苑

みなさんこんにちは！
 年が明けたのもつかの間、あっという間に2月になってしまいました。

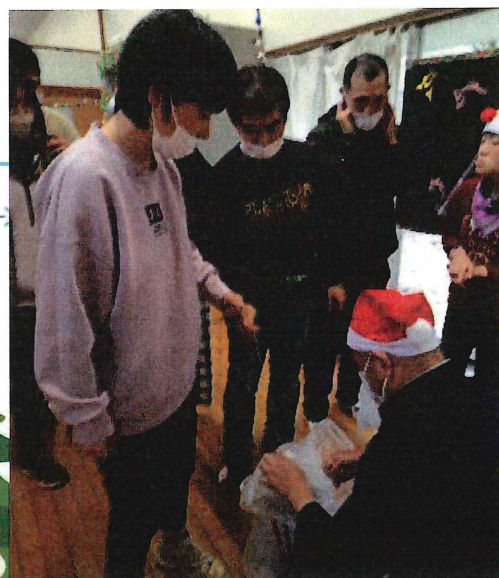
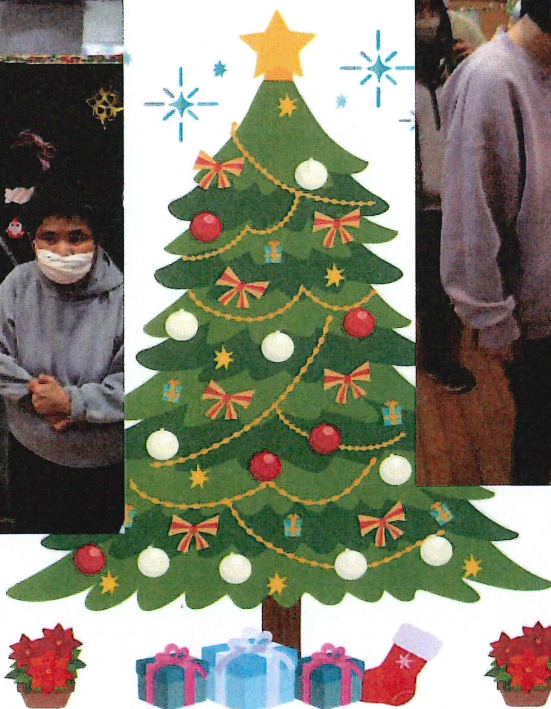
ゆたか福祉苑では、節分行事や1日外出イベントを行いました。
 皆さんとても良い笑顔をたくさん見せてくださいました。





12月25日にホールと食堂にて、クリスマス会を行いました。
クリスマスの装飾が施された食堂でジュースとお菓子を召し上がりました。
会の終わりにはプレゼントもあり、皆さんとても楽しまれていました。

けいよう



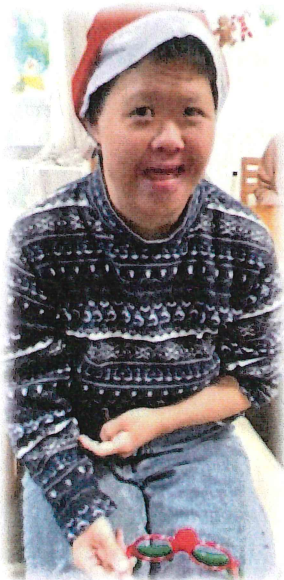
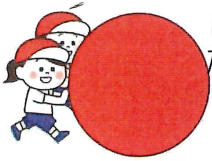
のまる

新しい年を迎え、すっかり本格的な冬がやってきましたが、皆様、体調を崩されることなく過ごされていますでしょうか。さて、のまるでは、延期になっていたのまるんフフエスタや、クリスマス会が行われましたのでご紹介いたします。

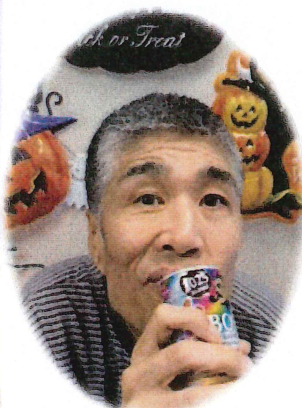
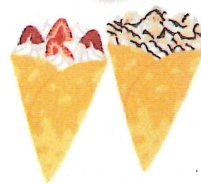
のまるんフフエスタでは、午前の部は秋の大運動会と題し、大玉ボウリングや二人三脚を行いました。皆様はちまきをして気合十分で臨まれていました。



午後の部には、関東キッチンカーナンバーワン決定戦で優勝経験のある、白いクレープの『しろのはち』さんに来ていただきました。クレープを口の周りに付けながら、美味しそうに召し上がっていたのが印象的でした。



クリスマス会ではボウリングを行い、サンタクロースからのプレゼントにもご満悦で、美味しいクリスマスケーキも堪能されました。



また、ハロウィンでは仮装をしたり、お菓子を食べたりして楽しまれた方々もいたようです。これからますます寒さが厳しくなりますので、皆様どうぞご自愛ください。



カメラリアハウス



☆見学会☆

先日、保護者のみなさんにむけてカメラリアハウスの見学会を行いました。普段どのように作業に取り組んでいるのか、どのような作業を行っているのか各グループをまわり見ていただきました。

外活動は一緒に参加することは難しいので、事前に動画を取り上映会を行っています。動画に映ったみなさんの様子にご家族からも笑顔が見られていました。

普段、連絡帳では伝わりにくい内容や活動の様子を見ることができてとてもいい機会だったと好評でした。

ご家族が見に来られることでいつも以上に作業を頑張る姿や職員にも良い刺激となった見学会でした。

今回参加できなかったご家族も多かったため、またこのような機会を設けていきたいと思っています。



ポスティング毎週頑張ってます！



付録や洋服の作業などなど



ホーム便り

こんにちは！グループホームです。今回は、DDホームズをご紹介します。

寒いけれどお天気の良い、ある日曜日の昼下がり、こんなというホームをたずねました。

こんねでは土日もご入居者様にご利用され、のんびりと休日をお過ごしされています。

インターホンを押して訪問すると、ご入居者様が笑顔で玄関まで出迎えに来てくれました。

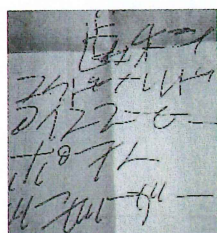
スリッパをお借りするため下駄箱を開けるのを手伝って下さり、夏用のサンダルを嬉しそうに見せてくださいました。

明るいいリビングに入ると、ブロックで手遊びをされている方がおられます。「こんねの生活は、どうですか？」とインタビュー

すると「うん。うん。」というようにうなずいておられました。また、ソファの方はお願ひする



と本を音読して読み聞かせて下さり、別の方は「通院の帰りにマクドナルドに行って好きな物を食べるんだ！」と教えて下さいました。



昨年末にお一人、別のところに移られるという事もありましたが、皆様にはどうぞいつまでもお元気に暮らしてほしいと思います。

※前回の記事でお名前に間違いがありました。正しくは「末広知之」様です。訂正してお詫びいたします。



とらのこきず



明けましておめでと〜ございます！
 1月から更に寒さが厳しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか？
 とらのこキッズでは1月にししまい集会を行ないました😊



集会では、年中・少さんと年長さん2つのグループに分かれて行ないました。しっかりと保育者のお話を聞いていました♪
 他にもお餅つきを行なったり、な！な！なんと!! とらのこキッズに獅子舞が遊びにも来てくれました!!
 初めて見る獅子舞にドキドキしている子、涙がこぼれてしまった子、獅子舞と触れあえた子など沢山の姿が見られました😊
 今年度も残り少ないですが、楽しく元気に過ごせたらと思います!!



さざんかキッズ



12月といえばクリスマス！さざんかキッズでもクリスマス会が行われました♪

今年は大きなサーキットに挑戦!! 大きなマットの山に登って、ゲームボックスをまたいで、くぐって最後はママやパパの所にゴールしました♪

そして、軍手隊も登場。今年は新曲もお披露目されましたよ。最後はサンタさんからプレゼントをもらって大満足でした😊
 にじ組さんのクリスマス会では巾着作りに挑戦!! 好きな色で巾着を染めて素敵な袋ができましたよ♪

もちろんサンタさんも登場してプレゼントをもらってニコニコでした😊
 (サンタさんの正体が理事長先生なのはヒ・ミ・ツ)

そして、年明け1月にはお正月集会が行われました♪ おせちのバスをみんなで歌った後にさざんか神社でクラスごとにお賽銭を入れてお願いをしました!!

そしていよいよ獅子舞の登場♪

始めは代表で園長先生が囃されましたが、囃まれないお友達はどうぞ！と促されると「ぼくも!」「わたしも!」とほぼ全員のお友達が前に出てきていました😊

